

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業
第 3 期中期計画フォローアップ (令和 4 年度実績)
【RISTEX】

1. 令和 4 年度における活動の概要

(総括)

客観的根拠に基づく科学技術・イノベーション政策の形成に寄与するため、政策ニーズを踏まえつつ、政策の形成や改善に将来的につながり得る基盤的な成果の創出を目指した研究開発を公募により推進した。また、採択中の研究課題についてのマネジメントを実施するとともに、終了プロジェクトの終了評価を行った。

(1) 公募

(活動の概要)

前年度中に企画・設定したテーマ (通常枠・共進化枠) をもとに、令和 4 年度公募を行った。

(令和 4 年度公募における採択件数)

【通常枠】 3 件 (応募件数: 16 件)

【共進化枠】 1 件 (応募件数: 3 件)

採択課題一覧

【通常枠】

課題名	研究代表者
政策形成過程における科学的知見の活用最大化のための中間人材の可能性について —成育医療・母子保健領域を事例とした分析と実証—	千先 園子 (国立成育医療研究センター こどもシンクタンク 副室長 ／こころの診療部 医員)
新興感染症に対する非特異的対策のための行動変容と科学コミュニケーションに関する合理化および最適化研究	西浦 博 (京都大学 大学院医学研究 科 教授)
原子燃料サイクル政策の受容に対する熟議的アプローチ: 感情と技術の作用機序に着目して	林 嶺那 (法政大学 法学部政治学科 教授)

【共進化枠】

課題名	研究代表者
スポーツ参加の促進要因の探索と支援政策の評価研究 — 国・自治体・個人レベルの重層的アプローチ	近藤 克則 (京都薬科大学 教授)

(2) マネジメント

(活動の概要)

採択している研究課題について、ハンズオンマネジメントを通じて、研究開発期間内に創出された科学的知見（エビデンス）が政策に反映されるよう効果的に研究開発を推進した。

(令和4年度中のマネジメント対象プロジェクト数)

21件 : R1 採択 5 件、R2 採択 5 件、R3 採択 7 件、R4 採択 4 件

プログラム総括による面談実施回数 26 回

プログラムアドバイザーによるサイトビジット・打合せ実施回数 27 回

(プロジェクト全体のマネジメント事例)

①プロジェクト間連携

複数プロジェクトのシナジー効果による、プログラムとしての研究開発成果の最大化を目指し、「プロジェクト間連携促進イニシアティブ」として複数プロジェクトが連携した活動を募集。希望するプロジェクトに対して、審査の上、追加的な予算措置を講ずる取り組みを推進した。

募集期間：令和4年10月25日（火）～11月15日（火）正午

募集対象：(a)政策プログラム内のプロジェクト（現行/過去）間連携

(b)RISTEX 内の他領域・プログラム プロジェクト間連携

(c)SciREX 事業内のプログラム連携

予算規模：政策プログラムの現行プロジェクトを対象に1プロジェクト当たり

40万円（直接経費）を上限

募集の結果、以下の5件を実施した。

(a)政策プログラム内のプロジェクト（現行/過去）間連携

- ・香坂 PJ-豊田 PJ：両 PJ 共通の項目を取り入れた共同ワークショップを開催
- ・田中 PJ-中村 PJ：論文査読不正に関する調査を共同で実施

(b)RISTEX 内の他領域・プログラム プロジェクト間連携

- ・乃田 PJ-沖 PJ（SOLVE）
：「身近な水インフラと流域治水」をテーマとしたシンポジウムを開催
- ・馬場 PJ-宇佐美 PJ（RInCA）
：両 PJ における技術開発や社会実装の課題や指針を得るためのシンポジウムを開催

(c)SciREX 事業内のプログラム連携

- ・坂井 PJ-池内 PJ（SciREX）
：次期 PJ を見据えた研究内容の理解と課題の抽出を試行するワークショップを開催

なお、田中 PJ・中村 PJ 連携に関しては研究公正をテーマとする共進化枠のプロジェクトであることから、文部科学省から日本学術会議への審議依頼にも資するものとして、日本学術会議とも連携しながら実施している（令和 5 年度継続中）。

②プログラムサロン

プロジェクト間、またプロジェクト-アドバイザー・SciREX センター間の交流や連携の機会を促すことや、SciREX 事業の一環としての本プログラム趣旨への理解を深めること等を目的にプログラムサロンを実施。研究代表者らのワークを通して各プロジェクトの目標やリソースを共有し、2023 年度以降のプロジェクト間連携に向けた構想の検討などを行った。

開催日時：令和 5 年 3 月 7 日（火）9:30-17:30

会場：AP 市ヶ谷

参加者：令和 2 年度以降採択の 13 プロジェクト関係者 19 名

プログラム総括・アドバイザー・プログラム推進委員 13 名

JST CRDS 及び RISTEX 関係者 7 名

主な実施内容：

基調講演「成果の政策実装に向けた実践を通じて得られた知見について」

加納 信吾 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授

スモールセミナー「成功事例の紹介、政策実装型研究開発の要件」

黒河 昭雄 RISTEX 研究推進委員

ポスターセッション

プロジェクト間連携に向けたエフェクチュエーション・ワークショップ

③政策のための科学 研究会

本プログラムの目的である「政策のための科学」、特に政策への成果の実装に関する知見については、学術的な新規性や独自性とは異なるプラクティカルな要素を多分に含むものであり、論文化はもちろん報告書等に掲載されにくいナラティブな形式であることが多くみられることから、プロジェクト間であらためてこうした「政策のための科学」をめぐる様々な知見の共有および交流の促進をはかることを目的として新たに研究会を開始し、過去の研究代表者からの講演と質疑応答を実施した。

第 1 回

開催日時：令和 4 年 12 月 12 日（月）13:20-15:00

登壇者：横山 広美 東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構 教授

参加者：プロジェクト関係者、プログラム総括・AD 等 40 名

第2回

開催日時：令和5年3月7日（火）9:55-11:05

登壇者：加納 信吾 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授

参加者：プロジェクト関係者、プログラム総括・アドバイザー等 39名

※プログラムサロンの基調講演として実施

（3）終了時評価

（活動の概要）

令和4年度中に終了するプロジェクトの終了時評価を実施した。

（実施状況）

5件の対象プロジェクトについて終了時評価を実施した。評価結果については RISTEX ウェブサイトにて公開予定。

対象プロジェクト

課題名	研究代表者
科学的エビデンスに基づく社会インフラのマネジメント政策形成プロセスの研究	貝戸 清之 (大阪大学大学院工学研究科 准教授)
市民科学とパーソナルデータを基盤とした発達障害支援の臨床の知の共財化 ※令和4年4月に「オープンサイエンスに基づく発達障害支援の臨床の知の体系化を通じた科学技術イノベーション政策のための提言」から名称変更	熊 仁美 (特定非営利活動法人 ADDS 共同代表)
研究力の「厚み」分析による社会インパクトの予測と政策評価手法の開発	小泉 周 (自然科学研究機構新分野創成センター 特任教授)
脱炭素社会の構築に向けた科学技術イノベーションの社会的受容性と価値創造の評価	高嶋 隆太 (東京理科大学理工学部 教授)
イノベーションを支えるデータ倫理規範の形成	横野 恵 (早稲田大学社会科学部 准教授)

（4）広報・成果発信

（活動の概要）

推進中および終了したプロジェクトのうち、特に著しい成果のあったプロジェクトを対象に「POLICY DOOR」における記事作成やメディアの活用等を通じた成果の発信を行った。

(実施状況)

①POLICY DOOR 記事公開数 : 5 件

「『脳』から見た人間の子育て」

(黒田 公美：理化学研究所脳神経科学研究センター親和性社会行動研究チーム チームリーダー)

公開 URL : <https://www.jst.go.jp/ristex/stipolicy/policy-door/article-12.html>

「『条件付き予測』で政策の精度を高める」

(仲田 泰祐：東京大学大学院経済学研究科 准教授)

公開 URL : <https://www.jst.go.jp/ristex/stipolicy/policy-door/article-13.html>

「縮小社会、科学的データが農林業、土地を守る」

(香坂 玲：東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)

公開 URL : <https://www.jst.go.jp/ristex/stipolicy/policy-door/article-14.html>

「【対談】コロナ禍の現場で見た『政策と科学』の相克 (第1部)」

(西浦 博：京都大学 大学院医学研究科 教授)

森田 朗：一般社団法人 次世代基盤政策研究所 代表理事／東京大学 名誉教授)

公開 URL : <https://www.jst.go.jp/ristex/stipolicy/policy-door/interview-06-1.html>

「【対談】コロナ禍の現場で見た『政策と科学』の相克 (第2部)」

(西浦 博：京都大学 大学院医学研究科 教授)

森田 朗：一般社団法人 次世代基盤政策研究所 代表理事／東京大学 名誉教授)

公開 URL : <https://www.jst.go.jp/ristex/stipolicy/policy-door/interview-06-2.html>

②RISTEX メディア説明会

研究開発成果の発信、社会的関心を高めること等を目的に、RISTEX 全体としてメディアを対象としたプロジェクト成果の説明空きを実施。本プログラムからは、笹子トンネル崩落事故から10年の節目であったことから、インフラマネジメントに取り組む貝戸 PJ を取り上げた。

開催日時：令和4年10月27日(木) 14:30-15:30

開催形態：オンライン配信

メディア説明会をきっかけに、複数媒体から貝戸 PJ への取材が入るなど一定の波及効果が見られた。

③科学技術白書 コラムでの研究成果掲載

令和4年版科学技術・イノベーション白書において、本プログラムより「多様なイノベーションを支える女子生徒数物系進学要因分析」(研究代表者：横山 広美 東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構 教授)(平成29年度～令和2年度)から、その成果をコラムとして掲載した。

pp.65-66, コラム1-2 「どうして物理や数学を専攻する女性が少ないの？」

https://www.mext.go.jp/content/20220608-mxt_kouhou02-000023228_4.pdf

また、令和5年版科学技術・イノベーション白書においても、「科学的エビデンスに基づく社会インフラのマネジメント政策形成プロセスの研究」(研究代表者：貝戸 清之 大阪大学准教授)(令和元年度～令和4年度)の成果についてコラム掲載予定である。

(5) その他特記事項

SciREX センターとの協力

①SciREX セミナー

SciREX セミナーにおいて、RISTEX から以下の2件について話題提供、研究代表者等からの研究報告およびパネルディスカッションを実施した。

第42回 SciREX セミナー

「どうする？日本のインフラマネジメント ～点検データの山から見出す意思決定の道筋～」

開催日時：令和4年11月4日(金) 18:30-20:00

開催形態：オンライン配信

スピーカー：貝戸 清之(大阪大学 大学院工学研究科 准教授)

水谷 大二郎(東北大学 大学院工学研究科 助教)

中村 和博(西日本高速道路株式会社(NEXCO 西日本)

関西支社総務企画部企画調整課)

モデレーター：黒河 昭雄(JST-RISTEX 研究推進委員)

第44回 SciREX セミナー

「子ども虐待を防ぐ養育者支援 ～生物学・行動科学的エビデンスからの提言～」

開催日時：令和5年2月22日(水) 18:30-20:00

開催形態：オンライン配信

スピーカー：黒田 公美(国立研究開発法人理化学研究所 脳神経科学研究センター

親和性社会行動研究チーム チームリーダー)

ディスカッサント：酒井 吉彦(厚生労働省 子ども家庭局 総務課少子化総合対策室)

(併) 子育て支援課 室長補佐)

モデレータ：黒河 昭雄 (JST-RISTEX 研究推進委員)

2. 事業終了を見据えた計画に対する進捗状況

該当なし

3. 中期計画の見直しのポイント

該当なし

以上